

令和3年度小中一貫教育推進計画書

中学校区名	蒲刈中学校区
代表者所属校 校長氏名	呉市立蒲刈小学校 稲田 直子

1 目指す児童生徒像

「未来を拓く児童生徒の育成」

- 学んだことを実際の社会や生活で生きて働かせる児童生徒
- 未知の状況にも対応できる児童生徒
- 学んだことを人生や社会に生かそうとする児童生徒
- 郷土を愛し、協働して貢献できる児童生徒

2 育成を目指す資質・能力（具体の姿）

資質・能力 設定した	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等	
	知識・技能	思考・判断・表現	自己の生き方を 考える力	協働的に 関わる力
後期	○社会人として必要なことはたくさんあることに気づき, その中で自分なりに大切にしていこうとすることをもつことができる(多様性)。 ○課題解決のために, 様々な業種や立場の人たちが連携協力していることを知り, 自らも共に地域貢献していくことの大切さを理解する(連携性)。 ○自己の将来設計を達成するために, 志を抱き自らその実現のために行動することの大切さを理解する(責任性)。	○課題解決の計画に沿って, 情報収集の方法を適切に選択でき, 探究の過程での学習内容を批判的に整理・分析し, 自分たちは何ができるのかを効果的にまとめ・表現・発信することができる。	○他者の生き方にふれながら, 学びを自己の成長へと結び付け, よりよく生きようと考えている。	○学びの経験を社会の形成者としての自覚につなげ, 積極的に社会参画しようとする。
中期	○探究課題に関わる種々の環境について多面的に見たり考えたりすることができる(多様性)。 ○状況に応じて, 課題解決のために互いに様々な協力がなされていることの大切さを理解できる。(連携性)。 ○一人一人に責任と役割があることに気づき, 自ら行動することができる(責任性)。	○出会った探究課題をもとに解決すべき課題を設定でき, 情報収集の方法や収集した情報の内容について, 多面的・多角的な整理・分析ができ, 目的意識や相手意識をもちながら, まとめ・表現することができる。	○自分にとって, 学ぶことの意味や価値を考えることができ, 自己の成長のための自己課題に積極的に取り組んでいる。	○互いのよさを生かしながら, 学びの経験を実社会や実生活への興味関心とつなげ, 進んで地域活動参加しようとする。
前期II	○探究課題に関わる種々の環境には, さまざまな特徴があることに気付くことができる(多様性)。 ○課題に対して人々の協力しながら解決に努めていることに気付くことができる(連携性)。 ○自分の生活は, 家族などの人々に支えられていることに気付くとともに, 自らの夢をもつことができる(責任性)。	○調べたい課題を設定し, 必要な情報を収集でき, 収集した情報を比較したり, 関係付けたりして整理・分析し, 相手を意識して表現することができる。	○自分の成長を自信につなげ, よりすてきな自分になるための自己課題に気づき取り組んでいる。	○学びの中で, 互いのよさや違いに気づき, 課題をよりよく解決するために協力しようとする。
前期I	○活動や体験の過程において, 自分自身, 身近な人々, 社会及び自然の特徴やよさ, それらの関わり等に気付くとともに, 生活上必要な習慣や技能を身に付けている。 ※知識及び技能の基礎	○体験・観察等を通して, 疑問等の気づきをもとに分かったこと及び自分の思いや考えを表現することができる。	○自分ができるようになったことに気づき, なりたい自分を思い描いている。	○学びの中で, 友達を助けたりほめたりしようとする。

3 研究主題と設定理由

(1) 研究主題

学びを活かし課題解決を図る児童生徒の育成
～授業改善と地域の学びを通して～

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が人間の予想を超えて加速度的に進展し、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会であるSociety 5.0へ移行すると言われている。このような変化の激しい社会をたくましく生きていくためには、子供たち一人一人が課題解決に主体的に向き合い、他人と協働しながら、自らの能力を発揮し課題を解決できる力を身に付け、幸福な人生を歩みよりよい社会の創り手になることが求められている。

本中学校区は、自然が豊かで人の営みが穏やかであり、地域の方は協力的である。このような中、児童生徒は日々落ち着いて学習に取り組んでいる。しかし、子供たちは、これまで幼少期から少人数で固定的な人間関係の中で生活や学習をしてきたため、多くの人がいる場や初めての場で自分から積極的に思いや考えを伝えることを苦手とする児童生徒が多い。また、自己肯定感はあまり高くはなく、自分の力を信じて前向きに挑戦する児童生徒は少ない。

そこで、これからの社会を創り出していく子供たちが社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために、9年間を見通した教育目標を「未来を拓く児童生徒の育成」とし、そのために育成を目指す資質・能力を4つ設定した。また、蒲刈中学校区の特徴である「ふるさと学習」を推進し、4つの資質・能力の育成を目指している。

具体的には、次の2つの部会で、研究主題に迫っていく。

『伸ばす学力部会』では、平成29年度から小中一貫で取り組んできた「教えて考えさせる授業」を通して、「主体的・対話的で深い学び」を育てていく。「教えて考えさせる授業」では、必要な事項は教師がしっかりと教え、子供どうしの相互説明や学び合いを通して理解の確認を図ったうえで、理解を深めるための課題によって問題解決や討論などを行い、授業の最後には振り返りを行う。このような授業の積み重ねにより、「主体的・対話的で深い学び」の創造を目指す。そして、予習や振り返り、課題解決に向けての学び合いを行うことで、自分の思いや考えを自分の言葉で伝える力を高めていくことができると考える。また、振り返りを充実させることによって、1時間の中で自分がどの程度理解できているのか、何が分からなかったのかなどメタ認知能力を高め、自らの課題発見の力を付けていくことも狙っている。更に、予習の指導による家庭学習の定着も図っていく。このように、「教えて考えさせる授業」において児童生徒の学び合いなどを効果的に仕組むことで、「見方・考え方」を働かせながら「主体的・対話的で深い学び」を目指すことができると考える。

『育む心部会』では、総合的な学習の時間のカリキュラムを中心に「ふるさと学習」と「生き方学習」の二つの大きな柱で主体的な学びを推進していく。「ふるさと学習」に加え、様々な人との出会いの中から、自己の生き方を考えていく「未来を拓く100のであい」プロジェクトを継続する。上蒲刈島と下蒲刈島の2島に対応した改訂版「総合的な学習の時間 指導の手引き」、テキスト「とびしま探訪」及び「とびしま検定」等の活用を通して、住んでいる地域の良さを再発見することによって、児童生徒に自分にできることを考え行動しようとする態度を養うことができると考える。また、合同行事を工夫し、認められる・役割を果たす・成功を体験することなどから、自己肯定感を向上させることができると考えられる。以上のことから、本主題を設定した。

4 研究内容

(1) 「伸ばす学力」部会

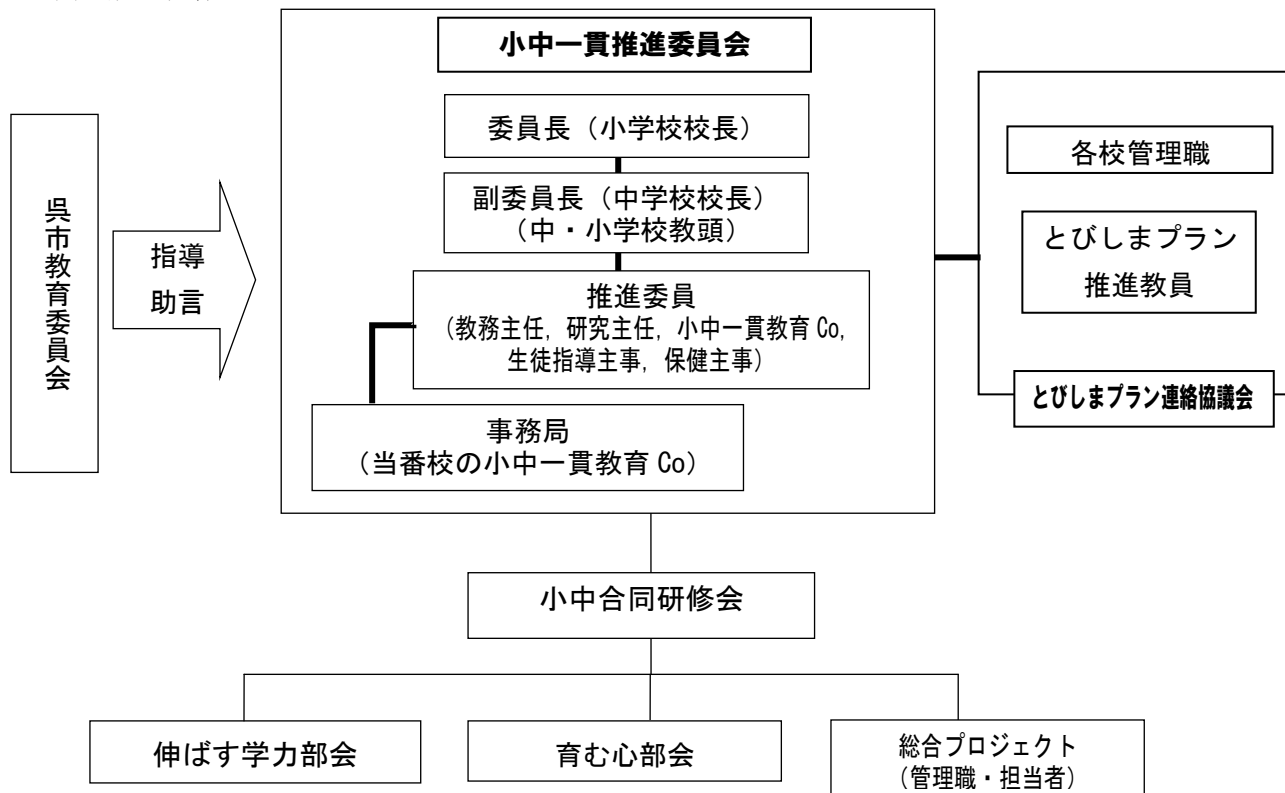
- ア 学力向上のための研究授業の実施（「教えて考えさせる授業」の充実）
- イ N I Eによる読解力トレーニング
- ウ 予習やICTを活用した家庭学習の充実

(2) 「育む心」部会

- ア とびしま探訪、とびしま検定（ふるさと検定）の活用
- イ 「未来を拓く100のであい」
- ウ 自己肯定感を向上させる合同行事

5 推進体制

(1) 推進組織



伸ばす学力部会		育む心部会	
代表 佐々木 裕介		代表 末長 直子	
小学校	中学校	小学校	中学校
校長 稲田 直子 小早川 崇 三良 志穂 小島 和也 石田 健太	教頭 坪浦 敏美 佐々木裕介 開内 佑樹 浅谷 由樹 酒井 巧実 石丸美千代	教頭 的場 秀騎 二川 美佳 高原 みさ 末長 直子 清水 克哉	校長 柿林 浩彦 林 晃也 神垣 裕子 岡崎 佑哉 上田真梨子 松本明日香

(2) 一部教科担任制実施計画

- ア 乗り入れ授業 (中→小)
 - ・理科 (6年)
- イ 小学校教員同士の交換授業等

6 見込まれる成果及び検証方法

(1) 見込まれる成果

- ① 「教えて考えさせる授業」をモデルとし児童生徒の学び合いを仕組み、「見方・考え方」を働かせながら「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業を実践することで、
 - ・自分の思いや考えを自分の言葉で伝える力を高める
 - ・振り返りの力を育成し自ら学習に取り組む態度を身に付けることができるだろう。
- ② 「未来を拓く100のであいプロジェクト」「改訂版『総合的な学習の手引き』の実践と改善」「『とびしま探訪』及び検定問題を活用した校区を越えての学び合いの機会」「地域と協働したとびしまの魅力の発信活動」など行い地域学習を充実させることで、ふるさとの良さや地域が抱える課題に改めて気づき、地域のために自分にできることを考え行動しようとする態度を養うことができるだろう。

(2) 検証方法

- ①児童生徒が自分の学習状況をとらえ、今後どのように学ぼうとしているかなどについて、授業後の振り返りから分析し、「主体的・対話的で深い学び」につながっていると思われる児童生徒の割合の増加（4月と1月末で比較）
 - ②全国学力・学習状況調査、広島県児童生徒学習意識等調査における児童生徒質問紙及び中学校区で実施する小中共同意識調査で、次の項目の肯定的回答率90%以上とする。
 - ・「自分の考えや意見を積極的に発表している。」
 - ・「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝わるように発表を工夫している。」
 - ・「地域の良さを再発見できた。」
 - ・「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。」
 - ・「自己肯定感をもつことができた。」
- ※各項目については、発達段階に応じて問い方を工夫する。
- ③学力調査等の結果を踏まえた指導方法の改善計画に基づく重点課題の目標値の達成（重点課題数のうち年間目標を達成した課題数）
- ④テキスト「とびしま探訪」を活用し、検定問題に挑戦する児童生徒の割合100%

7 推進計画

月	日	曜	計画内容
4	2	金	推進委員会①（小中一貫教育推進計画，合同遠足計画，合同運動会計画）
4	8	木	合同研修①（小中一貫教育推進計画）
4	26	月	合同遠足
5	7	金	推進委員会②（合同遠足まとめ，避難訓練，合同日曜参観日）
5	11	火	合同研修②（合同運動会及び予行に向けて）
5	14	金	合同運動会予行
5	16	日	合同運動会
5	28	金	合同避難訓練（土砂）
6	3	木	推進委員会③（合同運動会まとめ，合同日曜参観日・授業研究）
6	13	日	合同日曜参観日
6	25	金	合同研修③（小学校研究授業）
7	2	金	推進委員会④（日曜参観日まとめ，各部会の活動状況）
7	21	水	合同研修③（各部会の学期まとめ）
9	3	金	推進委員会⑤（発表会，合同避難訓練）
9	21	火	合同避難訓練（地震・津波）
9	22	水	合同研修④（中学校研究授業）
10	1	金	推進委員会⑥（発表会）
10	8	金	合同研修⑤（発表会事前準備・係打ち合わせ）
10	15	金	合同研修⑥（発表会最終係打ち合わせ）
10	23	土	「地域の参観日」蒲刈中学校区発表会
10	29	金	小中一貫教育だより①（担当：小学校）
11	4	木	推進委員会⑦（発表会まとめ）
12	3	金	推進委員会⑧（各部会の学期まとめ，合同避難訓練）
12	24	金	合同研修⑦（各部会の学期まとめ，合同避難訓練）
1	7	金	推進委員会⑨（来年度の小中一貫教育推進計画）
1	12	水	合同避難訓練（火災）
2	4	金	推進委員会⑩（各部会の年間まとめ，来年度の小中一貫教育推進計画）
2	18	金	合同研修⑧（各部会の年間まとめ）
2	29	火	小中一貫教育だより②（担当：中学校）
3			推進委員会⑪（来年度に向けて）